異邦人の福音

奨励	徐 珊珊〔じょ・さんさん〕
奨励者紹介	同志社大学神学研究科生

渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。
銀を持たない者も来るがよい。
穀物を求めて、食べよ。
来て、銀を払うことなく穀物を求め
価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。
なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い
飢えを満たさぬもののために労するのか。
わたしに聞き従えば
良いものを食べることができる。
あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。
耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。
聞き従って、魂に命を得よ。
わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。
ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。
見よ
かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし
諸国民の指導者、統治者とした。
今、あなたは知らなかった国に呼びかける。
あなたを知らなかった国は
あなたのもとに馳せ参じるであろう。
あなたの神である主
あなたに輝きを与えられる
　　イスラエルの聖なる神のゆえに。

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。
呼び求めよ、近くにいますうちに。
神に逆らう者はその道を離れ
悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。
主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば
　　豊かに赦してくださる。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり
わたしの道はあなたたちの道と異なると
　　主は言われる。
天が地を高く超えているように
わたしの道は、あなたたちの道を
わたしの思いは
　　あなたたちの思いを、高く超えている。
雨も雪も、ひとたび天から降れば
むなしく天に戻ることはない。
それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ
種蒔く人には種を与え
食べる人には糧を与える。
そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も
　　むなしくは、わたしのもとに戻らない。
それはわたしの望むことを成し遂げ
わたしが与えた使命を必ず果たす。

（イザヤ書　５５章１―１１節）

外邦人的福音

献给中国留学生们

感谢主能赐给我们这样一个机会、借助同志社大学的大学礼拜的场合进行一次中文的礼拜。刚刚在礼拜之前我们也做过一些简单的说明。这次的礼拜是一次是实验性的礼拜。同志社大学是个国际性很强的大学、不光中国人啊、韩国人这也亚洲国家、欧美人也不少。但是很遗憾的是、这么国际性的大学礼拜几乎都是用日语来进行的。考虑到这一点、我们想计划着做一个针对在日本的外国人的礼拜。因为我本身也是中国人、对中日两国的基督教进行一些学习、而且大学里面中国籍的留学生占全体留学生总数的将近一半、所以决定利用这个机会做一次面向中国人的礼拜。

可能大家在平时的生活学习中感受不到学校除了建筑物以外的基督教文化。其实就算是神学部里面、基督徒也不过百分之四十、甚至更低。但这所大学毕竟是从宣讲基督教开始建立起来的、有很多我们应该去尝试体验的文化。比如说、今天来到这里参加大学礼拜、尝试着听一下基督教的福音、尝试着为主即将降临于世而庆祝。

基督教的罪是什么

中国人可能都会变相的听过这样一句话：信基督、得永生。通过这句话、我们多少会认为基督教是个很排他的宗教、不信基督教的人都得不到救赎、在基督教的末日思想里、这些人会是被审判的一方。其实、基督教不是一个妄自尊大、也不该是一个妄自尊大的宗教。他的思想里人是有原罪的、不管你是不是基督徒、你都是有罪的。在座的可能很多都不是基督徒、突然说人都是带着罪出生的多少会无法理解、其实我们说的罪、并不是某一件具体的实例、简单的来说、是人生来就会因为各种的利益诱惑而背弃神的某些行为。比如我们会说谎、会因为自己的某些利益而伤害到他人、这些都属于罪的、我们因为犯罪、违反了和神的约定、远离了神。

然而这些罪、不管你是不是基督徒你会犯、而且推敲下去、一个基督徒他做了违反神的事、他的罪只会更重。所以教会不是一个纯洁干净的地方、是罪人们忏悔、祈求原谅的地方。罪对我们来说、是一个非常沉重的话题、我们可能会因此感到恐惧、甚至放弃信仰。可是我们的恐惧和不安都是没有必要的、就像今天我们读经的部分一样、神不但给背弃自己的以色列民族到来了救赎、还给外邦人的我们也同样带来了救赎。

给渴求安慰之人希望

现在我们来分享一下今天的经文、以赛亚书第55章１―11节。这是一片充满恩典和希望的经文。首先、我们先来回顾一下以赛亚书的背景。以赛亚书是旧约圣经中的经文、旧约是基督教和犹太教共同的经典、但由于犹太教并不认为他们的契约是旧的、耶稣基督更新了与神的契约、所以犹太教的圣经只由基督教的旧约组成。以赛亚书共有66章经文。这66章又可以分为三个

部分：

第１章到第39章为第一以赛亚、主要描写的是由于神的审判、以色列人被掳到巴比伦的时期。40章到55章为第二以赛亚、描写的是神的安慰、从巴比伦解放回来的时期。56到66章是第三以赛亚、主要写的是神的荣光将荣耀万民。

第二以赛亚书的作者是谁、到现在为止还是个迷、作者的姓名、职业、家庭背景、人际关系、我们全都不知道。这足以表示、当时的作者对这些外在的条件并不重视。这和我们现代人、是全然相反的。我们注重地位、注重钱财、注重社会价值。最近这几年又生出了富二代、官二代这些词、又开始注重自己的出身。我们在看重这些外在条件的同时、慢慢忽略了充实我们内在。这和第二以赛亚的作者是截然相反的。而由于我们的内在条件得不到充实、才会有背弃神的行为。我们说、第二以赛亚虽然描写了从巴比伦回到圣地之后的情况、但是当时的以色列人被毁了神殿、失去了信仰和希望、和被掳到巴比伦时的情况比起来不一定有多少的好转。而这种时候、人类常常会放弃自己的信仰。以赛亚书、耶利米书、以西结书同为旧约圣经的三大预言书、耶利米书里称这些人是背弃神和祖先定下的约定的人。以西结书中也提到任由当时的社会情况摆布的情景。与其尝受失去信仰的痛苦、不如现在能相对快活地活着。人都是这样、当遇到危险困难时、最能体现出自己最真实的一面。面对危险、能勇于挑战的只是少数人、我们大多数人都不能完全靠自己处理一个问题。或者假装看不见、又或者找各种理由去避开。而这个危机不是个人问题、而是一个民族全体的问题时、主张战斗的少数即便是正确地、最后往往也会是被批判、或是被无视的一方、正如我们刚才提到的耶利米、险些为此失去生命。

当整个名族的大部分都放弃自己的信仰、仅一小部分在为了真理而战斗时、这些人坚定的是值得称赞的。然而、第二以赛亚并不是这些为了相互鼓励、相互分享神的安慰而写的、他的对象、是那些在现实生活中疲惫不堪、精神生活中放弃了神的人。

刚刚我们说到、第二以赛亚是神的安慰。这一点、在40章的开始就明确的告诉了我们、在第１节中写道：你们的神说、你们要安慰、安慰我的百姓。因为神的安慰、所以才有了今天这段神向以色列发出邀请的经文。

以色列民慢慢远离他们的神时、神处罚他们的同时、也带个了他们更大的恩典、那就是神主动地去呼喊、去唤他们回来。即便是远离了我的人、在干渴时、来我这里饮水、在饥饿时、不用你付出任何代价就可以得到食物。神的恩典叫远离他的人回转、邀请远离他的人来赴福音的筵席、而这唯一的条件、就是渴求。只要你渴求、你得到的就是喜乐的酒和神恩言的奶、全都是白白赐予的恩典礼物、不用银钱、不用价值。

但是我们能在预言书中看出、以色列还是远离了神。他们`花钱买那不足为食物的、用劳碌得来的、买那不使人饱足的、。神曾与大卫约定、应许以色列人有永久的国家、不会受到异教国家的威胁、没有战争（撒下七10～11）。可是以色列并没有履行于神的约定、他们没有顺从神去脱离偶像。可即便以色列民离开了神、违背了约定、神还是选择了再次另立新的契约、原谅他的民。

这新的契约将会是神的独生子作工的结果、他要作万民的见证、作他们的君王和司令。因着这约和他们的顺服、人背弃神的行为得到纠正、找到生命中真正需要的营养。而这个万民的君王、就是我们的主、耶稣基督。我们在这里可以看到、新的约定并不只是面向于以色列的、素不认识的国民、外邦万民也同样分享见证神荣耀的恩典。

而我们的得到救赎、并不是由于以色列民的选民思想。过去的以色列民族虽然被神选中、与神定下了契约、但是经过了掳掠时期的现在、随着神殿的瓦解、被神选中的名族的刻印和特权已经消失、自己自身的信仰也随之失去。在这绝望之中、能够萌生希望的不是相信自身可能性的人、而是无论何时都相信神的可能性的人。我们要相信神说的话、相信只有神的话才是亘古不变的。因为神的话有如雨雪、不可抗拒、必然生效。

現在、我们

这周是将临期的第二周、大家都知道、圣诞节是基督教的最重要的节日、在这一天、神的独生子为了救世人、成肉身降生到人间。由主耶稣的降生、到受难、被钉在十字架、受死、埋葬、复活、为我们敞开天门、是我们得救赎、得永生。这里面没有任何一件是我们能做到的、这也不是我们给神什么好处来换取的。这些都是神无私的赐给我们的恩典。所以这一天的礼拜、中国的教会会人山人海、成千上万的信者和求道者在一个教会庆祝主的降生、感受神的恩典和荣耀。

但其实、圣诞节的准备早在圣诞来临前３、４个星期就已经开始了。这就是将临期、我们在将临期来临时、将教堂装饰一新、在广场上设立圣诞树。从将临期的第一周主日开始、每周会多点亮一根蜡烛、随着蜡烛的增加、我们的心情会越发激动和喜悦。这一切都是为了一个人的降生、全世界的基督徒都为了这个人的降生而欣喜。因为这个人的降生、我们这些外邦人得以被神接纳为百姓、再一次清楚地告诉了我们神的救赎计划不单单只是面向以色列人、外邦人也同样能够与他们一同因神的怜悯而荣耀神。

现在、我们正在一点一点的等待这个喜悦降临的日子。因为我们已经明白神的旨意、神的恩典在软弱的我们面前显得更加完全、他已经成就了在我们身上的恩典与祝福。

同志社にいる中国人留学生に

同志社大学のチャペル・アワーで、中国語礼拝を行うことができました。同志社大学はとてもグローバルな大学で、世界中から約１３００人の留学生がここで勉強しています。しかし残念ながら、同志社大学のチャペル・アワーは日本語以外の言語で礼拝を行ったことがあまり多くありません。このことを考えて、外国人向けの礼拝を計画したいと思いました。その初めとして、現在同志社大学に通う中華圏の人は６５２人で、留学生全体の半数を超えたことを考慮し、中国人向けの礼拝を行うことにしました。

皆さんは普段の学校生活において、建物以外からキリスト教文化を実感しにくいかもしれませんが、この大学の創始者がキリスト教に基づいた教育をすることを目的としていたことを頭のなかに置いてほしいです。ここには、私たちが普段体験していないことがたくさんあるので、少なくともこの学校にいる間に体験すべきだと思います。たとえば、こうしてチャペル・アワーに参加すること、キリスト教の福音を聞いて、共にイエス・キリスト誕生の喜びを祝うことです。

キリスト教の言う罪は何？

中国の皆さんはいろいろな形でこういうことを聞いたことがあると思います。キリストを信じるものは永遠の命を得る。この言葉を中国語で話すとき、キリスト教がとても排他的な宗教であると勘違いされやすいのです。キリスト教を信じていないものは救われない、終末が来る時、裁きを受ける側になると捉えられるからです。しかし、キリスト教は思いあがって自惚れる宗教ではないし、そうであるべきでもありません。その思想のなかに、人は皆、生まれながらに罪を負っている、というものがあります。クリスチャンではない方にとって、いきなりこういう話をすると重い気分になるかもしれませんが、ここでいう罪とは、国で定められている法律に反することではなく、人がこの世でいろいろな誘惑に惑わされ、神から遠ざかることです。

クリスチャンだけではなく、どんな人でも罪を犯す恐れがあります。この場合、クリスチャンの方がより大きい罪になるとも考えられています。ですから、教会の神聖さは人からではなく、神から現れるのです。教会は罪を犯した人びとが自分たちの罪を認め、悔い改めるところです。罪は重くて、恐怖や不安を感じますが、それゆえにこそ、神の愛によって赦されるときの喜びが深くなるのです。この喜びはかつてイスラエル民族だけに与えられていましたが、イエス・キリストによって、異邦人である私たちにも同じように与えられました。諸民族が皆救われる喜びを、イエスの誕生を祝うこのときに、一緒に分かち合いたいと思います。

なぐさめを求む人たちへの希望

今日の聖書箇所、イザヤ書の５５章１―１１節はとても心強い箇所です。イザヤ書は全部で６６章で、１―３９章は第１イザヤであり、バビロン捕囚の時期が描かれています。４０―５５章は第２イザヤであり、バビロン捕囚から帰ってきた後の話です。５６―６６章は第３イザヤであり、新しい救いの宣言について書かれています。

今日の聖書箇所は第２イザヤに属していますが、この部分の作者が誰なのかは、いまだに分かりません。作者本人は自分自身について一切語らなかったのです。自分のことを気にしていなかったからです。これは現代社会に生きる私たちとは逆の位置に立っています。今の私たちは地位・名誉・財産などの外面的なものに注目し、そのために努力しています。第２イザヤの作者と反対のことをしています。そして、外面に注目するあまりに、内面が満たされない結果、私たちは神から離れてしまうのです。特に当時のイスラエル人にとって、バビロンから戻ってきたとはいえ、神殿が壊され、信仰と希望を失い、その精神を支えてくれるものがありませんでした。この途方に暮れた状況で、多くの人が神から離れていきます。エレミヤ書は罪を犯す人たちを神との約束を裏切った人と記し、エゼキエル書は社会の流れのままに生きるという表現を使っています。危機に遭うとき、まっすぐ立ち向かう人が極めて少なく、多くの場合は避けるか、無視するかのどちらです。この危機が個人ではなく、民族全体が抱えているという場合、それに立ち向かう主張がたとえ正しいとしても、批判され、無視されます。

しかし、第２イザヤにおいて、神様は強い信仰をもって戦う人たちに語っているわけではなく、現実の生活に疲れを抱きながら、神から離れた人たちに語っています。

イスラエル民族は神から離れ、その裁きを一度受けました。しかし、この裁きは永遠のものではなく、裁きの後に、その苦しみを遥かに超える喜びが与えられました。神が自ら、私たちが御元に戻るように呼んでいます。神から離れた人だとしても、渇いたとき、水を飲ませてもらえる、飢えたとき、何の代価を払うことなく食事を得られる。神の恵みから離れた人を宴会にまで招いています。そこにいく唯一の条件は、求めることです。求めれば、喜びのぶどう酒と御言葉の乳を得る、これはすべて何の代価も払う必要のない神様の恵みです。たとえ人が一方的に約束を破ったとしても、神は新たな契約を結び直すことにしました。

この新たな契約は、私たちの主、イエス・キリストによって成就したものです。その約束によって、人が神から離れる過ちが修正され、命が必要とする真の養分が得られます。そして、この契約はイスラエル民族だけに与えられたのではなく、諸民族も同じく神の栄光の証となります。

私たちが救われたのは、イスラエルの選民意識によるものではありません。過去のイスラエル人は一度神に選ばれた民となりました。しかし、契約を破り、捕囚を経た今は、選民の烙印と特権はすでに失われていました。この絶望のなかで、希望を与えたのは自分たちの可能性を信じる人ではなく、神様の可能性を信じる人たちです。神の言葉を信じることです。その言葉こそ普遍的なものであり、一度発せられた言葉は必ず使命を果たします。

そして今の私たちは

アドベントに入り、イエス・キリストの降誕は間もなくです。キリストは天に昇り、私たちに天国の扉を開けてくださり、救いを与えてくれました。この過程において、私たちの力によってできることは一つもありません。私たちが何かをするのと引き換えに、救われるわけではありません。この救いは神様から与えられた無償の恵みなのです。ですから、アドベントの時期に入ると、クリスマスの飾りつけをし、クリスマス・ツリーの点灯式を行います。アドベントの第一週から、毎週蝋燭の数が増えるにつれ、私たちの期待も胸に膨らんでいきます。これは一人の人の誕生のためであり、全世界のクリスチャンはこの人の降誕を喜び祝います。彼の誕生によって、神の言葉の成就を知ることができ、異邦人である私たちも神の民として受け入れられることが確実に分かるのです。

今、ここでキリストの降誕を記念することによって、私たちはもう一度神の御業を感じます。神の恵みが心の弱い私たちの前に、より完全に示され、その救いがすでに成就したからです。

２０１３年１２月１０日　今出川火曜チャペル・アワー「アドベント讃美礼拝奨励」記録